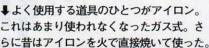
のアドバイスやアフターケアも手掛けていた。 力者を顧客に活躍した柴田音吉洋服店。洋服 →創業当時、明治天皇や伊藤博文といった有





↑大正の初め、洋服が庶民にも浸透し始めた頃、テーラーは勃興期を迎える。100名あまりの丁稚を抱えていた柴田音吉洋服店。





き」と話す、4代目・柴田音吉さん。 ファッション・ドクターであるべ スから服の手入れまで面倒を見る ←「テーラーは、洋服のアドバイ ながら、是非とも一着仕立てたい。 知ると納得がいく。語らいを楽しみ くい感があるが、仕上がりの良さを が高そうに見えるので、店に入りに

衣生活を担っている。が、一見料金

今もテーラーは身近にあり豊かな

## テーラーは衣生活の助言者

次のように言う。

4代目・柴田音吉さん(50歳)は

後日本人が相次いで紳士服店を開業 カペルドの開業をきっかけに、この 神戸。明治2年、英吉利人P・S・ している。 近代洋服発祥の地の顕彰碑が立つ

最古の老舗。頑なに手作りの良さを りれページに)は、現在商いを続ける 守り続けるテーラーである。 で創業した柴田音吉洋服店(詳細は カペルド門下で、明治16年に神戸

果たしていきたいですね」

えられていったのである。 見聞は、テーラーを窓口に庶民へ伝 の上でも、技術においても、テーラ 人という立場から西洋に深く接した ーが果たした役割は大きい。洋服職 外来物全てが珍しい時期に、知識

単なる仕立屋ではなく、衣生活のア ます。アドバイザーとしての責任も 昔の話をよく聞きました。当時は、 間人は医者と洋服屋だけだ、という な存在だったそうです。今は、そん ドバイスや新しい知識を伝える特別 な役割が薄れ、洋服のルールやマナ ーもどんどん忘れられてしまってい 「天皇や皇族のお住まいに入れた民

## 触れ合い、手作りの温かさを実感 店内の仕事場で顧客と職人

豊富だった2代目が才覚を発揮し、 だろう。今は家業のテーラーと、輸 の高さを感じさせないのはそのため ず出迎えてくれる。老舗特有の敷居 いる影響もあるようだ。 入服地商という本業を完全に分けて を訪れると、裁縫職人の仕事場がま 出の『柴田音吉洋服店』である。店 最も歴史のある注文紳士服店が、前 創業から117年目。海外経験が 洋服との親しみが深い神戸の町で

あります」と言う。 型紙やデータは、20年は保存して 沢治徳さん。「一度誂えたお客様の →カッター兼工場長を務める、稲

感を与える。手縫いの確かな技が できる店造りは、訪れた人に安心 ●接客スペースから作業場が一望 かい服作りと職人の優れた技の継承 作りを楽しめるようにしています」 を作り、お客様と職人が一緒に洋服 に力を注いでいる。 点作りを極めた老舗として、温

身近に見られるのも嬉しい

な生地の品定めも満喫できる。 からこそ、幅広い嗜好に応える豊富 いる。また、服地を扱う本業がある のしっかりとした着用感を踏襲して を極め、仕立ては、手縫いならでは 応えていくという、一点作りの価値 継がれている。客のあらゆる要望に らこそ、往年の手作りの良さが受け いう思いが一層強くなったようだ。 っきり区分けして、「家業は守る」と 音吉さんの代になり、服地商とはは 本業の基盤を築いた。 4代目・柴田 高級輸入紳士服地商という、現在の 「手作りの温かさが基本です。その 伝統を頑なに守れる環境があるか

-ダーメイドの目安

ため、店内に職人が仕事をできる場

●価格の目安:ジャケットの価格 は生地代込みで18万円 は同25万円~。店長とカッタ 生地や仕様の注文に応じる。

製作期間:注文から10日で仮縫 その後3週間で出来上がる

:兵庫県神戸市中央区元町 ☎078・341・1161 (支 店:東京・帝国ホテル内『欧風館 **☎**03·3503·7973)

5

さと仕立て栄えを兼ね備える。 用感を追求した独自の一枚仕立て。 だが、上品さを醸し出す。←軽量な着 万円)。着やすさを追求したゆったり型 を使ったジャケット(生地代込みで38 ➡柔らかく光沢がある上質のカシミア 軽